

過去に発生した主な水害

平成 30 年
(2018 年)

平成 30 年 7 月豪雨



写真提供：国土交通省 中国地方整備局
(広島県広島市)

前線や台風第7号の影響により、日本付近に暖かく非常に湿った空気が供給され続け、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となりました。

九州北部、四国、中国、近畿、東海、北海道地方の多くの観測地点で 24、48、72 時間降水量の値が観測史上第1位となりました。

これらの影響で、河川の氾濫、浸水害、土砂災害などが発生し、死者、行方不明者が多数となる甚大な災害となりました。また、断水や電話の不通等のライフラインに被害が発生したほか、鉄道の運休等の交通障害が発生しました。

平成 27 年
(2015 年)

平成 27 年台風第 18 号



提供：国土交通省関東地方整備局
(茨城県常総市)

平成 27 年9月に発生した台風第 18 号及び台風から変わった低気圧に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響で、特に関東地方と東北地方では記録的な大雨となりました。

鬼怒川では、堤防の決壊や複数箇所の溢水が発生し、常総市の約 1/3 の面積に相当する約 40 km² が浸水しました。

また、避難の遅れにより、多くの住民が孤立し、約 4,300 人が救助されました。

この影響により、被災地では、死者 7 名、行方不明者 15 名となったほか、住家被害が発生しました。

平成 25 年
(2013 年)

平成 25 年台風第 26 号

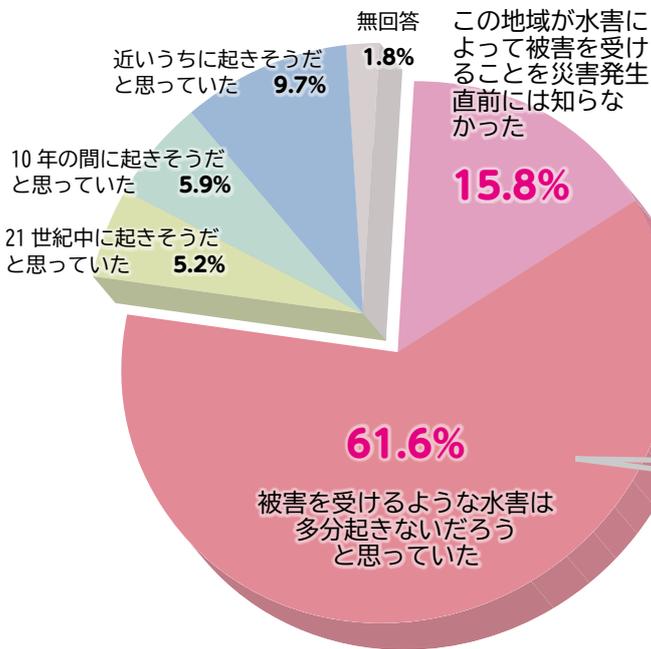
10 月 11 日にマリアナ諸島付近で発生した台風は、大型で強い勢力のまま 16 日明け方に暴風域を伴って関東地方沿岸に接近しました。

その後、台風は関東の東海上を北上し、16 日 15 時に三陸沖で温帯低気圧に変わり、台風がもたらす湿った空気の影響で、東京都大島町大島で 824.0 mm、静岡県伊豆市天城山で 399.0mm となるなど、関東地方や東海地方では 300mm を超える雨量を観測しました。

この影響により、八潮市では、床上浸水 103 棟、床下浸水 110 棟の被害が発生しました。

命を守るために行動する

様々な理由によって、災害による危険が迫っていても「逃げない人」がいます。逃げ遅れによって亡くなる場合もあり、何か起きた後では取り返しがつきません。



被災地では、約**77%**の人が

「自分は被害を受けない」

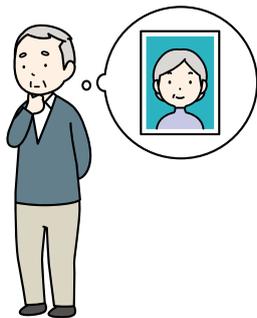
とっていた。

77.4%が

- ・被害を受けることは知らなかった
- ・水害による被害は起きないと回答

(参考) 平成 30 年 7 月豪雨災害での対応に関するアンケート調査より

危険が迫っていても逃げない理由



自宅に思い出や大切なものがあるので逃げない。



警報が発表されたけど大丈夫そうだな
近所の人たちが避難しておらず、浸水しない地域にいると思ったので逃げない。



周囲が浸水しても2階以上に避難すれば安全だと思っていたから逃げない。



プライバシーがない
暖房がなくて寒い
避難所で過ごすことが嫌だったから逃げない。

逃げなかった場合



家の中に入ってきた濁流で溺れる。



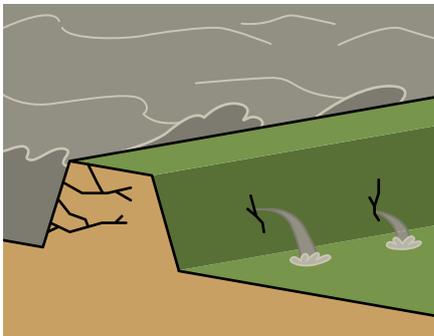
水が引くまで家の中に取り残され、身動きが取れない。

浸水が発生する水害の種類

外水氾濫



大雨によって、川の水が増えて水かさが増えます。



堤防の上まで水が増えると、堤防自体が水で押され始めます。



さらに水かさが増え、水の押す力が強くなると堤防の一部が崩れ始めます。



堤防が崩れた場所から水が流れ出します。

内水氾濫



市街地に降った雨は、側溝や水路を通して川に排水されます。



大雨で川の水位が上昇すると、水路や側溝での排水がしづらくなります。



大雨により、水路や側溝では水が排出できずに道路が冠水します。



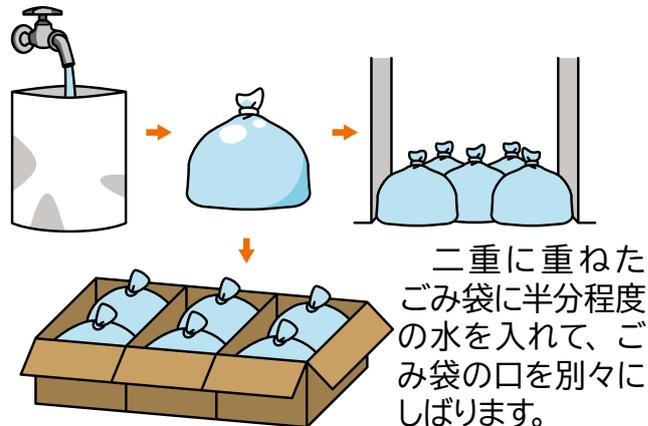
排水できない水が住宅で床上床下浸水や道路冠水を発生させます。

浸水被害を軽減する

道路・側溝の清掃



簡易水のう工法



屋外の浸水防止



屋内の浸水防止



必要な物を2階に移動



浸水被害を避けるため、家具、家電、荷物を2階以上の高い所へ移動します。

非常持出袋を用意



いつでも避難できるように非常持出袋を身近な所に置きます。

避難行動の種類

避難方法は、「立退き避難」と「屋内安全確保」の2種類があります。

浸水被害が軽微の場合は、「屋内安全確保」で自分の命を守ることができますが、大規模水害によって、浸水被害が大きい場合は、建物の2階も浸水する可能性があるため、「立退き避難」を行ってください。なお、利根川で氾濫が発生すると、場所によっては1日後に八潮市で浸水が発生する可能性があります。テレビ、ラジオ、インターネット等の情報や市役所から発表される情報に注意して、適切な避難行動を行ってください。

立退き避難



自宅等から移動して、避難所、避難場所、近隣の高い建物、その他の安全な場所へ移動する。

屋内安全確保



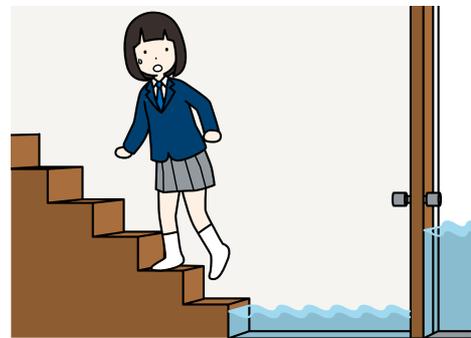
その時点で居る建物内の2階以上の安全な場所で待避（垂直避難）する。

自宅等にとどまる



2階以上の部屋で生活するため、1週間から2週間分の飲料水、食料、生活物資を用意します。

2階以上に避難



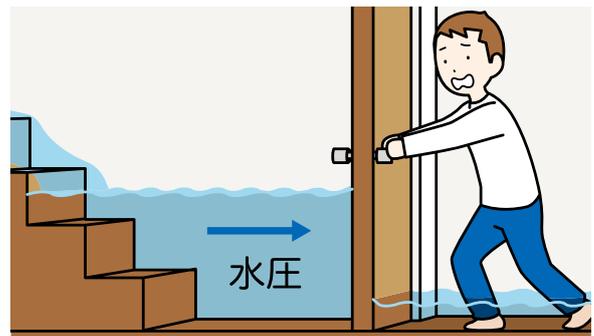
避難所に向かうことが危険な場合は、自宅や近隣建物の2階以上に避難します。

安全な場所で待機



外出先では、むやみに移動せず、会社や学校など安全な場所にとどまります。

地下には避難しない



地下は冠水のため避難が難しくなるので、自宅にいる場合は、上階に避難します。

避難を開始する

運動靴をはく



長靴では、水の中で思ったように足が動かないので、運動靴を履いてください。

近所の住民に声掛け



近所に住んでいる方に声を掛けて、複数人数で避難します。

溝などを確認



冠水している道路を歩く場合、長い棒などで溝を確認して、安全な場所を歩きます。

電車で避難



目的地までの電車の運行状況も確認し、早めに避難を開始します。

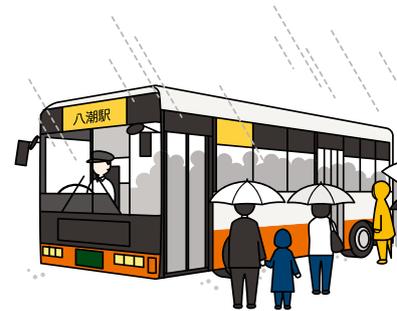
雨風によるダイヤの乱れ

| | | | |
|---|----------------------|-------|----|
| 1 | つくば方面 for Tsukuba | 18:30 | 運休 |
| | | 18:40 | 運休 |



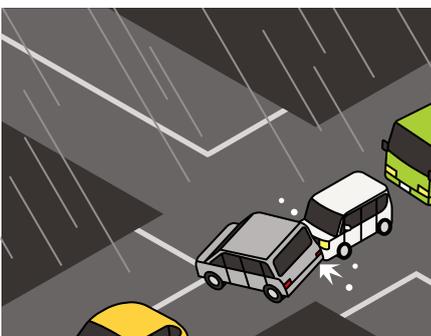
雨や風の影響から、電車が遅れたり、運行停止になります。

バスやタクシーで避難



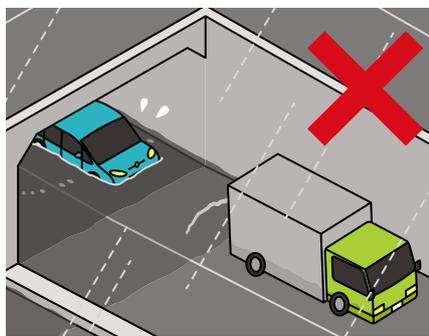
到着遅れ、運転の見合せ、利用者の増加によって、すぐに乗車できなくなります。

一斉避難による混乱



駅や橋に避難者が集中することで、混乱で事故が発生します。

地下構造は通過しない



アンダーパスや地下道路は冠水の危険性があるので通らないでください。

河川や水路に注意



水があふれ、流れが激しくなり危険なので、川に近づいたり、様子を見に行かないでください。

警戒レベル別の避難行動

警戒レベル1

警戒レベル2

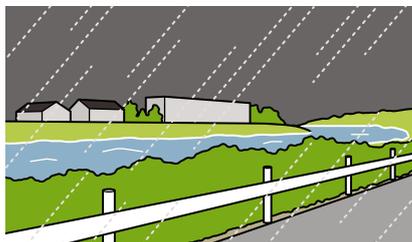
警戒レベル3

(避難準備・高齢者等避難開始)

外
の
様
子



雨は降っていないが、警報級の可能性で翌日の警報が予想



降雨で河川が増水し、水位の上昇に注意が必要



激しい降雨で河川が増水し、さらに水位の上昇を予想

気
象
情
報
等

早期注意報

「警報級の可能性」として、警報級の現象が予測されるときに、その可能性が高・中の2段階で発表されます。

大雨注意報・洪水注意報

大雨、洪水、強風などによって災害が起こるおそれがある際に発表されます。

大雨警報・洪水警報

大雨、洪水、強風などによって重大な災害が起こるおそれがある際に発表されます。

氾濫注意情報

河川の氾濫の発生を注意する場合に発表されます。

氾濫警戒情報

河川の氾濫の発生を警戒する場合に発表されます。

避
難
情
報

避難準備・高齢者等避難開始

水位観測所の水位が避難判断水位に到達し、引き続き水位上昇のおそれがあるなどの場合に発表します。

配慮が必要な方又は高齢の方

避
難
に
時
間
の
か
か
る
方



テレビやラジオで気象情報を確認する。
(44 ページ参照)



避難所や避難経路、避難のタイミング等の再確認する。



避難所へ避難を開始する。
(15 ページ参照)

す
ぐ
に
避
難
で
き
る
方



テレビやラジオで気象情報を確認する。



避難所や避難経路、避難のタイミング等を再確認する。



避難する準備をすすめる。この段階で自主的に避難も考える。

市役所が発表する避難情報と国や埼玉県が発表する防災気象情報が5段階に整理され、警戒レベルでも避難のタイミングを伝達することになりました。発表される警戒レベルや避難情報を確認してください。

警戒レベル4

(避難勧告)



河川が増水して、あふれ出す可能性が高い。

警戒レベル4

(避難指示(緊急))



河川が増水してあふれ出す可能性が非常に高い。

警戒レベル5

(災害発生情報)



河川の堤防がくずれ、流れ出した水で災害が発生している。

河川氾濫危険情報

河川が、いつ氾濫してもおかしくない状態にある場合に発表されます。

避難勧告、避難指示(緊急)

水位観測所の水位が氾濫危険水位に到達した場合、または氾濫の発生のおそれが高い状況になった場合に発表します。

大雨特別警報

警報の発表基準をはるかに超え、数十年に一度しかないような重大な災害の危険が差し迫っている場合に発表されます。

氾濫発生情報

河川が氾濫し、災害がすでに発生している状況です。

災害発生情報

河川の決壊や越水・溢水が発生した場合に発表します。

※市役所が災害発生を確実に把握できるまでに一定の時間がかかるため、発表前でも災害が発生している場合もあります。



安全になるまで避場所にとどまる。



近隣の安全な場所への避難や建物内のより安全な部屋に移動する。



災害が既に発生しているので、命を守るための最善の行動をとる。



避難所へ避難を開始する。



安全になるまで
避場所にとどまる。